

# 陸稲におけるセジロウンカの異常発生について

誌名	茨城県病害虫研究会報
ISSN	03862739
著者名	仲田,道生 高橋,修 横須賀,知之 千葉,恒夫 中島,久仁夫 関口,淳 小森,隆太郎
発行元	茨城県病害虫研究会
巻/号	28号
掲載ページ	p. 7-8
発行年月	1989年4月

# 陸稲におけるセジロウンカの異常発生について

\*           \*\*           \*\*\*           \*\*\*\*  
 仲田道生・高橋修・横須賀知之・千葉恒夫  
 \*\*\*\*\*   \*\*\*\*\*           \*\*\*\*\*  
 中島久仁夫・関口淳・小森隆太郎

セジロウンカは水稻の重要害虫として知られているが、1987年に本県東南部の海岸沿いの畑作地帯に異常発生し、陸稲で坪枯れ状の被害が認められた。

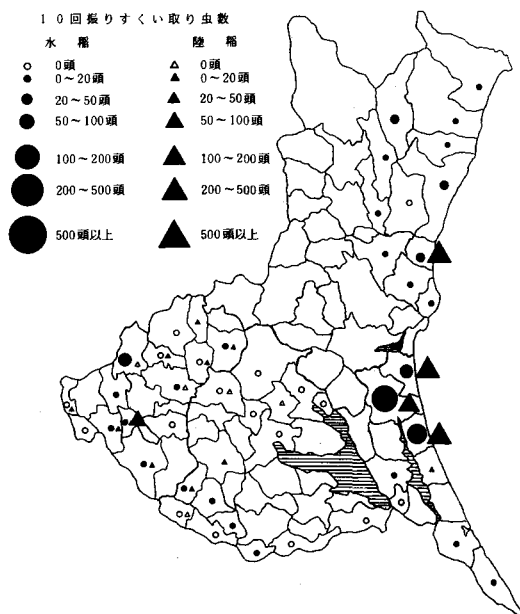
これまで陸稲での被害はあまり知られていない。ここでは、県内の発生状況及び被害状況について報告する。

## 1. 本県の発生状況及び被害状況

1987年8月2日、銚田地区農業改良普及所から陸稲にウンカが大発生しているという連絡が病虫害防除所鹿行支所に入り、調査したところセジロウンカであることを確認した。そこで、4日から5日にかけて、県内の海岸沿いの地帯と以前セジロウンカが多発した地帯を中心に、水稻と陸稲ほ場をすくい取りで一斉調査した。水稻94ほ場、陸稲33ほ場において調査した結果では、ほとんどがセジロウンカであり、一部ヒメトビウンカが混入していた。水稻では調査ほ場の約55%、陸稲では約88%のほ場にセジロウンカの発生が認められ、水稻、陸稲とも海岸沿いの地域に発生が多く、特

に大洋村の陸稲では10回振りすくい取りで約1万頭のは場が確認された。(第1図)(第1表)(第2表)

また、8月下旬から9月上旬にかけて被害の状況を調査したところ、陸稲では旭村から大野村にかけての海岸沿いの地帯で坪枯れ状の被害が確認されたが、水稻では特に被害は認められなかった。被害ほ場ではセジロウンカの脱皮殻と虫糞がかなり認められ、被害の状況は水稻でみられる被害とほぼ同様でセジロウンカの吸汁による倒伏と不稔によるものであった。鹿行地域北部4町村(銚田町、旭村、大洋村、大野村)の被害面積は陸稲作付面積の約14%にあたり、また、50%以上減収したほ場は銚田町、大洋村などに約2ha認められた。



(図1) セジロウンカ市町村別発生状況

茨城県病虫害研究会会報第28号(1989); 7~8

- \* 病虫害防除所
- \*\* " 鹿行支所
- \*\*\* " 県北担当
- \*\*\*\* 園芸試験場
- \*\*\*\*\* 病虫害防除所県南支所
- \*\*\*\*\* " 県西支所
- \*\*\*\*\* 農業試験場

(第1表) 県内のセジロウカ発生状況  
(8月4～5日調査)

	地域	調査圃場数	程度別地点数				発生地点率%
			甚	多	中	少	
水 稲	県北	35	0	0	3	23	74.3
	鹿行	15	1	1	5	7	93.3
	県南	18	0	0	0	3	16.7
	県西	26	0	0	1	6	26.9
	県計	94	1	1	10	39	54.3
陸 稲	県北	2	1	0	1	0	100
	鹿行	11	5	2	0	4	100
	県南	8	0	0	0	5	62.5
	県西	12	0	1	0	10	91.7
	県計	33	6	3	1	19	87.9

注) 程度別基準は農作物有害動植物発生予察事業実施基準による。

(第2表) 主な地点のセジロウカ生息密度  
(10回振りすくい取り虫数)  
(8月4～5日調査)

調査地点	水 稲			陸 稲		
	成虫	幼虫	計	成虫	幼虫	計
鉾田町 徳 宿	515	52	567			
“ 白 塚	238	0	238			
東海村 村 松	111	30	141			
旭 村 鹿 田	114	12	126			
大洋村 上 沢	106	0	106	7448	2224	9672
“ 汲 上				3503	496	3999
東海村 村 松				792	204	996
大洋村 岡堀込				585	0	585
旭 村 造 谷				522	58	580

## 2. 全国の発生状況

1987年のセジロウカの全国的な発生状況は、7月3日～4日にかけて九州地方に大量飛来があり、関東では神奈川県に6日～8日に大量飛来が確認されている。8月の全国の発生量をみると各県とも平年より多い状況で、関東近県も多かった。しかしながら、本県のように陸稲での発生が特に多かったという事例は報告されていない。

## 3. 考 察

セジロウカが陸稲で大発生した原因としては飛来が平年より早かったことが考えられる。本県への初飛来は7月7日に鉾田町の誘蛾灯で認められ、これは平年より12日早かった。

また、8月上旬に一斉調査を実施した時点では成虫や老齢幼虫が多かったことから、飛来後1世代を経過し、その間急激に増殖したと考えられる。鹿行地域の降雨状況をみると、7月中・下旬は降雨日数が少なく雨量も少ないことから、ウンカ類の発生に適した気象条件であった。

陸稲で坪枯れ等の被害が出たことについては、発生確認後の防除対策に不徹底があったのではないかと考えられる。水稲ではウンカ類の防除が実施されているが、陸稲での被害はこれまでほとんど知られていなかったため、防除対策を講じた農家は少なく、また、薬剤散布を実施したほ場ではセジロウカの死骸が地面に数多く見られ、被害はほとんど認められなかったことなどから、防除の不徹底が被害に結びついたと推察される。

以上、陸稲におけるセジロウカの異常発生について記したが、これまでこのような報告は少なく、異常発生や被害発生の原因については不明な点が多い事などから、今後も機会をとらえて調査を実施し、検討を加える必要があると考えられる。